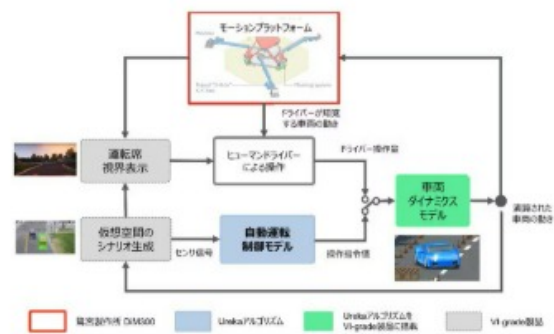


# ソライズと鷺宮製作所、自動運転や運転支援で限界走行まで体感可能 DS活用技術を共同開発

自動車部品・素材・サプライヤー 2026年5月21日 05:00 SNSで共有:   



ドライビングシミュレータの構成図

ソライズホールディングス（HD）傘下のソライズ・ユリーカ・テクノロジー（堤寛朗社長、東京都千代田区）と鷺宮製作所（西見成之社長、同新宿区）は、自動運転および運転支援機能のアルゴリズム（計算手順）を、ドライビングシミュレーター（DS）上で限界走行まで体感できる技術を共同開発したと発表した。開発で得たノウハウを生かし、自動車開発に関わる顧客へ新たな価値を提供していく構えだ。

ソライズは自動運転シミュレーターで、目標経路・車速の算出やステアリング・アクセル・ブレーキの制御アルゴリズム開発を推進してきた。一方、鷺宮製作所はDS分野で、国内外の自動車関連業界に、モーションプラットフォームを提供している。

ソライズは自社アルゴリズムを同プラットフォームで動作させることで、自動運転時の安定性やアシスト機能の優位性をリアルに体感できると判断。鷺宮製作所も、プラットフォームの性能を顧客に伝えるため、レーストラックでの限界走行というソライズのコンテンツが最適と考えた。

今回の開発では、カナダ最長のレーストラック「カラボギー・モータースポーツ・パーク」を舞台とした。シミュレーション中の動きで発生する加速度がドライバーに与える影響に着目し、それぞれの技術をチューニングした。ソライズはステアリング制御アルゴリズムを最適化し、より安心感のある挙動を実現。鷺宮製作所は、高速かつ大きな加減速度が連続する条件に対応するため、独自のアルゴリズムを最適化させた。これにより、ドリフト時の横滑りをリアルに再現させることなどができた。

レーストラックにおける限界走行状態での「自動運転」「手動運転」「運転アシスト」の3モードを高度に体感できる技術確立した。高度な自動運転や車両運動性能の開発では、どう感じるかといったドライバーの主観評価の検証が不可欠で、この技術を生かしてDS活用を支援していく。